

「2025 年の政治動向に注目」

今年も年末となりました。しかし、タイでは 1 年に 3 回お正月を祝う機会があります。日本と同様に西暦のお正月である元旦(1 月 1 日)、中華圏の旧正月である春節(1 月下旬～2 月上旬)、タイの旧正月にあたるソンクラーン(4 月)といった形です。そのため、多くのタイ企業では 12 月 31 日と 1 月 1 日は休みとなっているものの、長期休暇というイメージはありません。ただ、多くのショッピングモールではカウントダウンの花火など大規模なイベントもあり、主に都市部とはなってしまいがタイでの年越しも中々味のあるものとなっています。

今年の大きな話題としてはやはり政治が挙げられます。2023 年から 2024 年にかけてのタイの政権交代は、セター・タウィーシン氏の首相就任と解任、ペートンタン・シナワット氏の最年少首相就任という大きな政治的变化を伴うものでした。その前提として 42 才の新進気鋭の政治家ピター氏が前進党を率いて第一党になったものの、旧権力の妨害を受けて首相になれず、セター氏が就任したという経緯もありますので、詳しくは [2023 年 6 月の当レポート](#) などをご覧ください。

2023 年 8 月 22 日、タイ貢献党のセター氏がタイの第 30 代首相に選出されました。同氏は、不動産大手サンシリの創業者で、民間人として首相に就任しました。この首相選出は 12 年ぶりの選挙によるものとなりました。実業家としての経歴を活かして経済政策や観光振興を中心に据えた政策を掲げましたが、2024 年 6 月に実施された世論調査では、多くの国民が「具体的な成果が見えない」として不満を表明し、政権の限界が浮き彫りとなりました。特に、経済格差や汚職など長年の政治課題は解決が進まず、国民の失望を招きました。

2024 年 8 月 14 日、タイの憲法裁判所が倫理規定違反を理由にセター首相の解職を命じると、政権は崩壊しました。この判断は一部から「司法権を利用したクーデター」と見なされ、政治的混乱を深めました。また、タクシン派の政治家を含む内閣改造や、タクシン元首相を巡る法的問題も政権の不安定さを増大させた要因と言われています。

2024 年 8 月 16 日、タイ貢献党の党首でタクシン元首相の次女であるペートンタン氏が新首相に選出されました。タイの歴史上最年少の首相として政権を率いることとなり、その若さや改革志向が一部の若者や都市部の支持を集めていますが、農村部や保守派からは懸念の声も上がっています。

ペートンタン政権もセター政権と同様に連立政権の基盤が弱く、王室改革や上院制度改革を巡る深刻な分断が残っていると言われています。また、上述の経済格差や汚職といった長期的課題の解決に向けた具体策が求められています。

さらに国としても高水準の家計債務、主力輸出品であるハードディスクドライブ需要の低下、中国からの観光客回復の遅れなどが、経済成長の妨げとなっています。

首相は「国民の声に耳を傾ける」との姿勢を強調、また父であるタクシン元首相との連携を明確にし、政権運営の効率性を高める意図が見られます。しかし、これも元首相の「傀儡政権」である

との見方も強く出ています。元首相の影響力が政権の透明性に疑念を生む可能性もあり、国民はその動きを注視しています。

そういう意味ではタイの政治情勢は依然として不安定であり、今後の政権運営が国民の信頼をどの程度回復できるか、課題に合わせた具体的な政策を実行できるかが焦点となると考えられます。

その方針次第では日本企業の追い風となりうる政策も出てくると考えられ、その動向に注目です。



↑ 大手ショッピングモール、アイコンサイアム周辺での大規模カウントダウンイベントの様子